



校長室だより

自立に向かって「自分から」

学校と家庭・地域を結ぶ深け橋通信

第14号 令和4年11月15日

小美玉市立美野里中学校

「挑戦」について考える

本年度の全国学力・学習状況調査生徒質問紙で「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」という質問がありました。「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒は、他の質問に比べると、多くない数字でした。

挑戦するのは怖いことです。勇気が要ります。質問紙の問いが、「失敗を恐れなくて」という文言なので、答えに窮してしまう気持ちは分かります。

それぞれの生徒が、勉強・受験の場面でも、部活動の場面でも、挑戦しなければならないときがあるはずです。高い目標を設定すればするほど、結果は未知数ですから、二の足を踏んでしまうこともあるでしょう。

やるか、やらないか決断を迫られたとき、あなたはどうか。

「準備」をして慎重に判断して臨むか。自分の思いを最優先して、思い切ってやってみてしまうか。これは正解がない問いです。



いくら周到に準備しても、自分が思っていたのとは違う状況が生じてしまうこともあるでしょう。

とにかく飛び込んで、経験して、失敗してもそこから学んでいくこともあるでしょう。

私自身、これまでの人生を振り返ってみても、決断を迫られて判断に困ったことはいくつもありました。

そんな場面で、私がしてきたことは、「人に相談してみる」ことでした。そして、「最終的な判断は自分でしなければならない」ということを学びました。

迷っているときには、情報が必要でした。もがいて、人に相談したり、本を読んだりしました。でも、どんな優れた人の意見でも、他の人の意見に左右され過ぎて判断して失敗したときは、悔やむ思いが強く残りました。

やはり、自分自身で選んだときの方が「自由」を感じるが多かったように思います。ただし、それで失敗することもあり、「責任は自分でとらなければならないのだ」ということを思い知らされたこともありました。そんなとき、楽天的で、気持ちの切り替えができる親友をうらやましく思うこともありました。

私が、いつも子供たちに目指してもらいたいと思っている「自立」は、そうたやすいことではありません。大なり小なり「リスク」は伴うのです。でも、それが人生というものでしょう。失敗と成功の繰り返し。「禍福はあざなえる縄のごとし」とはよくいったものです。

保護者の皆様方には、お子様の「挑戦」は正解のない問いなので、十分に相談にのっていただくとともに、お子様を自分とは違う一人の人格をもつ存在として尊重していただきながら、「意思」を育てていただければと思います。それぞれが、中学校時代に限らず、これから先、何度も、自分自身の生きる道を探し求め、判断していく存在なので、